



道 建 労 協 機 関 紙

PAVE

Council of Road Construction Worker's Unions(C.R.U)

道路建設産業労働組合協議会

〒104-8380

東京都中央区京橋1-19-11 (日本舗道労働組合内)

電話03 (3562) 5857



21世紀も魅力ある産業で あり続けるために



議長 日高 純三
(日本舗道労働組合)

皆さま、明けましておめでとうございます。年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。一九九九年・二十世紀最後の年が明けました。世界史の中でも比類の無い急激な変化と激動の百年の最終年を迎えたわけです。ノストラダムスは「七月の月に空から大魔王が降りて来る」と予言しております。何を意味するのか不気味ですが、人類が犯した地球規模の環境破壊などに対する警告だけであって欲しいと願うかぎりです。

さて、昨年七月に中央の定期大会で決議された98年度の取り組みは、前回発行の「PAVE」に掲載いたしました。例年の活動に加え次の項目を重点取組事項と致しました。

- ① 組織の検討
- ② 地方協議会の充実
- ③ 組織の拡大
- ④ 産業別労使懇談会の開催
- ⑤ 産業政策活動の充実

これらは、平成八年二月に出された答申「道建労協の目指すもの」の具体化であります。これまで、年度当初と春闘時の年二回開催の「単組代表者会議」を十二月段階で既に二回開き、各項目について、意見を交換しながら精力的に進めております。①については、統廃合にも触れた意見交換の結果、建設産労懇組織の枠組みの中で、各組織が得意分野を活かし、その中で協力し合うという方向で進むことを確認しております。②については、四地方協議会の抱える問題点を洗い出し、無理なく、より成果の上がる活動を目指すもので、関係各位のご意見をともに進めていきます。③は、道路建設産業の中で組合の無い企業に対し組織化のアプローチを行い道建労協組織の拡大を図ろうというもので現在活動中です。④は、会社側の労働組合担当役員と単組代表者を交えた中央執行委員会のメンバーで労働環境問題の改善等を中心に意見交換する場を持つというものです。第一回目は、十二月十五日に労使セミナーに先だって開催され、有意義なものとなりました。

⑤は、道路産業特有の夜間工事問題などについて、組織の中での実態調査と意見を集約し、マスコミや建設産労懇の協力を得て発注官庁や公安委員会に訴えていこうというものです。なお、十二月十七日付の「日刊建設工業新聞」に報道された「阪神高速道路路公団の全面通行止工事」は、勇気ある決断であり、非常に価値ある前例として各発注機関に対し影響を与えるものであります。

今年も道建労協は、道路建設産業を代表する労働組合として地道ではありますが活発に活動します。そして21世紀も魅力ある産業であり続けるために、働く者の立場から発言して行く所存であります。

本年も、()にとりまして良い年となりますことを祈念致しますながら年()挨拶とさせていただきます。

フリーウェイ

鹿苑寺(ろくおんじ)は、通称名である金閣寺の方が一般的によく知られている。この地、衣笠山一体には鎌倉時代から貴族の山荘などが造られたが、藤原公経が造営した北山第がその代表的なものであったという。後に將軍足利義満が、ここを譲り受け、新たに北山殿の造営を始めた。一四〇八年に義満が急死し彼の遺言に従い、夢窓国師を開山としてこの場所に鹿苑寺を創建した。応仁の乱の際には金閣他一部を残して焼失したが、桃山時代に相国寺の西笑承兌が復興に努め甦る。しかし時は流れ一九五〇年に若い僧侶の放火により全焼。五年後に再建され更に一九八七年には金箔を厚いものに張り替える修復工事をしているが焼失以降、国宝には指定されていない(この放火事件を題材に、後に三島由紀夫が「金閣寺」を著す)。放火事件を機に金閣寺のイメージは大きく変わり寺院としての魅力はもはや感じられず、派手に着飾った山荘といった感じのほう強い。焼失前の国宝金閣を擁する金閣寺であれば、もっと違った感覚で見ることができたであろう。失ったものはいくら嘆いても戻らないが、「金閣寺」に見習うべく先代が築き上げ、受け継いだものを無駄にすることなく将来に向けての礎としたい。道建労協の目指す道は遠大であるが、原点に戻り歴史をひも解いてみればその道しるべとなるであろう。

(東京舗装工業労組 小林)



有馬講師（全労済）

第2回執行委員研修会開催

98年11月27日（金）、28日（土）の2日間にわたり静岡県掛川市ヤマハリゾートつま恋において、加盟10単組、計22名の参加のもと第2回執行委員研修会が開催された。時・場所を同じくして関東地協幹事会合宿も実施されたため、賑やかな開幕となった。

日高純三議長の挨拶、参加者の自己紹介に続き、最初の研修会プログラムである長野滋事務局長による「労働組合の役割について」の講義があり、参加者全員が労働組合のあり方について真剣に考え、意見を述べた。次に、日高議長による「道建労協の活動について」では今後の活動目標等の説明、問題点が提起された。続いて全労済、有馬恵司氏を講師にお迎えし、「保険（共済）制度の現状」についての講演が催された。

休憩を挟み、今回の研修の目玉となる「模擬団交」が、執行委員研修会メンバーと関東地協幹事会メンバーの合同でとり行われた。テーマは、「法定外勤務割増率の改正」（実際、日本舗道が98春闘で要求）がとりあげられ、会社側、組合側および判定委員の3グループに分かれ、本番さながらの白熱した討議が繰り広げられた。司会・進行役の丸山祐二執行委員（日舗）は、「模擬団交は道建労協として初の試みであったが、皆様の熱意ある意見により非常に盛り上がった。今後、各単組においても機会があれば模擬団交を実施し、本番に少しでも役立てるようにしていきたい」と結び初日の研修スケジュールを終えた。

翌日は、11月下旬とは思えない快晴となり、早朝の散歩・体操、朝食後、関東地協幹事会と合同でレクリエーションが行われた。インストラクターの指導のもと、4チームに分かれ日頃の運動不足の体にむちをうち、皆が真剣に軽スポーツを楽しんだ。昼食後、日高議長の挨拶より「2日間にわたる研修であったが過密なスケジュールの中、誰一人怪我人もなく、皆様のご協力をもちまして内容の濃い研修とすることができた。また、今回は関東地協の幹事の皆様にご参加いただき懇親を深めることができたことも成果の1つである。今後は、今回の研修を参考にして、他の地協にも声をかけていきたい」との挨拶があり、有意義な研修会の幕を閉じた。



模擬団交の組合側を演ずる面々



模擬団交の会社側を演ずる面々



シャッフルボードに挑戦中

単組代表者連絡会議

1998年10月5日に三島において、今年度第1回の単組代表者連絡会議が開催され、今年度の運動方針の具体的取り組み、組織の問題、各単組の制度改訂等の現状についての討議が行われた。

今年度の運動方針の具体的取り組みについては、各活動における単組の担当の割り振りや年間スケジュールの報告の後、各活動の趣旨の徹底と実効ある取り組み方法について検討がおこなわれた。その中で、例年2回行われていた単組代表者連絡会議を年4回開催とし、今まで以上に道建労協と単組との意志の疎通を図り、総意に基づいた方向性を検討しやすい状況をつくることで一致した。

組織の問題は、激変する環境、現在の建設産業を取り巻く厳しい状況に対応するため、道建労協の組織のあり方について、内部体制のあり方、他組織との連携についての意見交換と地方協議会の充実、未組織企業へのアプローチが話し合われた。他組織との連携については「建設産労懇」と「建設連合」の質疑と説明があり、今後の連携においての材料として認識確認した。内部体制のあり方については道建労協の組織強化の方策として体制のあり方について意見を聞いた。地方協議会については、現在各地協での負荷を本部としてどのように軽減し更に活性化を目指せるかを協議した。道建労協として組織の拡大を図るため、リストラの風が吹く中で労働組合を必要としている未組織企業へアプローチし、積極的に組合をつくる手伝いをする事を確認し、情報の提供を依頼した。

各単組の制度改訂等の現状については、会社側より申し入れのあった制度改訂問題について、単組毎に報告してもらい意見、質問そしてアドバイスが出され話し合われた。各単組においては経費節減に伴う諸手当の削減、給与体系の見直し等の諸問題に直面しており、他の単組での各問題に対し改訂の細部にまで及ぶ質問やそれに係わる対応法などを確認した。制度改訂は多くの組合の共通の課題となっており、これを機に単組間での情報交換がスムーズに行われることとなろう。

今回の単組代表者連絡会議は従来の会議にもまして多くの意見が出され、組織、制度改訂に対し、高い関心があることと今後の道建労協に対しての期待の高さが伺われた。

企業訪問

次号に結果が発表されることとなりますが、11月に恒例の「第二・四土曜日の事業所一斉休業運動」が行われました。道建労協では、個人個人や単組毎の取り組みではなかなか改善出来ない部分を業界全体の取り組みとして前進させていこうと運動に先立ち本部役員が各加盟単組の企業や業界団体を訪問し、経営者とお会いして、この運動の趣旨を説明し協力を要請をしてまいりました。「第二・四土曜日の事業所一斉休業運動」は当初は道建労協の単独の運動でしたが、現在は建設産労懇（日建協、建設連合、建設省職組、全電工労連、全国通建、CEU）と一緒に取り組む大規模なものになりました。今年は景気の冷え込みによる建設不況で各社とも厳しい中間決算が予想されるなかでの企業訪問となりました。道建労協は各経営者に対し「日本全体が労働時間短縮に向け動いている中で、建設業も多くの企業が完全週休2日制が導入されたものの中には土曜日が休めていない事実があり、また建設産業を取り巻く厳しい環境の中で時短が進みにくい」と状況を説明し「メリハリをつけた勤務による生産性の向上を目指すこの運動を企業として協力していただきたい」と要請をしました。企業側の反応としては「9月までの天候不順による工程の遅れ、12月からの都内での幹線での工事規制などにより難しい部分もあるが協力をしていく。今後も道建労協としてこの活動を続けていきたい」との理解を示して戴きました。今回の「第二・四土曜日の事業所一斉休業運動」が達成出来なかった事業所も、日頃よりの従業員全員で「休む努力」をする事が大切です。あきらめてしまうことなく個人の努力を積み重ね、事務所ぐるみで取り組むことで少しずつでも前に進むことは可能です。皆で休めるよう頑張りましょう。

- | | | |
|-------------------|--------|---------|
| 10月1日 前田道路(株) | 岡部社長 | |
| 7日 東京舗装工業(株) | 安月社長 | 立石総務部次長 |
| 9日 フドウ道路(株) | 石田社長 | 盛山取締役 |
| 日本舗道(株) | 仁瓶社長 | 須藤取締役 |
| 12日 東亜道路工業(株) | 玉田社長 | 柴田常務取締役 |
| 15日 大成ロテック(株) | 三嶋社長 | |
| 16日 大林道路(株) | 小西社長 | 水谷人事部次長 |
| 20日 大有建設(株) | 田野岡取締役 | |
| | 志賀リーダー | |
| フジタ道路(株) | 藤田社長 | |
| | 伊藤取締役 | |
| 21日 三井道路(株) | 末吉社長 | |
| | 黒田取締役 | |
| 27日 (社) 日本道路建設業協会 | | |
| (社) 日本アスファルト合材協会 | | |



東亜道路工業(株)訪問

地協の活動状況

関西地協総会

関西地協の第9回定期総会は、来賓として道建労協本部より日高議長、森平副議長をお迎えし、各単組からの代議員25名が出席のもと平成10年9月21日（月）の18:30より、大阪府立労働センター7階会議室にて開催されました。

総会議事には、大成ロテック社員組合の上原代議員が、総会書記には日本舗道労働組合の岡本代議員が選出され、活発な討議のなか、第8期経過報告、第9期活動方針案、第9期予算案等の議案は全て満場一致で可決されました。

今後の関西地協の活動予定については、役員による幹事会と企画、レクリエーション、広報の3つの分科会にて決定されますが、企画では12月にクリスマスパーティを、レクリエーションでは来年1月にボーリング大会、7月にソフトボール大会を、広報では機関紙「こんべいとう」の2回の発行を予定しています。

前期もクリスマスパーティ、ボーリング大会、ソフトボール大会には、それぞれ100名程度の参加があり、各単組の組合員の交流を深める場となっています。（日本舗道労組 山崎浩靖）



議長（左）上原氏（大成ロテック社組）、書記 岡本氏（日本舗道労組）



中部地協総会

道建労協中部地協も発足以来10年目をむかえ、10単組各2名選出による幹事会も新たなるメンバーで構成スタートを切りました。幹事会の選出されたメンバーの年齢構成をみると、私をはじめとして平均年齢30歳代前半の社会的に中堅社員の仲間入りを果たすとともに、今後の建設業界の将来を担って行かなければならない世代を中心に構成されています。

道建労協の活動方針の一つとして「道建労協の目指すもの」という概念の中に、社会的認知を受け、社会的影響力を持ち、社会的責務を果たす産業別労働組合及び一人一人の組合員が活動に参加でき、一人一人の組合員の意見が反映される開かれた産業別労働組合を目指すという目標が掲げられていることは、皆様、御存知でしょうか。私自身、中部地協の活動を4年間してまいりましたが、賃金・一時金・労働時間の短縮とった基本的労働条件の向上はもとより、地協内で構成されている3部による取り組み（広報部会によるより身近な存在として地協を感じてもらえるような機関紙「さんぽ道」の発行、レクリエーション部会による各単組間の交流をテーマに、さらに福利厚生の一環としての活動を目指したボウリング大会・ソフトボール大会・ディズニーランドツアー・クリスマスパーティー・スキーツアー・潮干狩りの計画・実施、教宣部会による労働時間の短縮をテーマにした意見交換会及び人生設計を再確認する為の「ゆとりらいふセミナー」の開催等）を通して「道建労協の目指すもの」の私なりの認識がようやく確立してきたように思われます。

10年目という区切りの年をむかえ、定着しつつある道路建設産業を代表する労働組合としての役割を果たすために、諸先輩方から受け継いだ組合活動精神を継承しつつ、私達世代が今後の10年の活動を行う為のビジョンを策定するという重大な責任を受けとめなければなりません。

この建設業界苦況の中、企業と組合の有意義な存在を実現させる為、皆様方の更なる御協力をお願いしまして、ご挨拶とさせていただきます。（大成ロテック社組 佐藤宗吾）

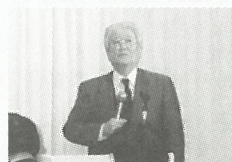


佐藤新議長
（大成ロテック）

労使セミナー開催

98年12月15日に東京都千代田区の九段会館において、道建労協主催の労使セミナーを開催した。道建労協加盟各社との労使懇談会（議長年頭挨拶に記載）のあと、法政大学の山本吉人教授を講師にお招きし、「労働条件変更についての問題点」について講演と質疑応答を行った。講演に先立ち日高議長が「厳しい環境のなか、企業体質の改善が求められ、それに伴い労働条件の改定が議論的になっている。直面する課題への対応策について学びたい」と挨拶した。講演内容はそれに沿うもので、人事異動、労働条件の不利益変更、人員整理といったまさに時宜にかなった内容を歴史的流れを踏まえ判例をいくつか紹介し、わかりやすく解説していただいた。また今年4月から改正施行される、男女雇用機会均等法、労働基準法のポイントについても説明を受けた。その後の質疑でも数々の質問が

出され、充実したものとなった。セミナーには道建労協以外の労組のない道路建設業各社からも参加を戴き、また日本道路建設業協会、建設産労懇メンバーの日本建設産業労働組合協議会や建設連合からも出席をいただいた。



山本吉人教授



関東地協総会

去る9月26日（土）に、鉄鋼会館に於いて道建労協関東地協第9回定期総会が開催された。総会議事は、97年度経過報告及び決算報告に引き続き、質疑応答が活発に行われ、その後、加盟10単組の「さらなる発展と友好」をスローガンに掲げた98年度の運動方針と予算の説明がなされた。5名の新任役員を含む新年度17名の役員の承認と併せ、いずれの議案も満場一致で可決承認された。これによって、関東地協は98年度活動へ向けて力強く第一歩を踏み出した。

（前田道路労組 桑原則行）



説明中の五十嵐 議長（前田道路労組）



講演中の笹村書記長（東海興業労組）

北海道地協総会

第8回 定期総会開催

道建労協北海道地協の第8回定期総会が例年より1カ月早く、札幌東急インホテルで開催されました。例年行っておりました北専プラザの会場が、今の時代を反映するかのように閉鎖となり、先の会場となりました。当日は本部より日高議長、新事務局長の長野さんを迎えて、いつもとは違う雰囲気の中で総会が始まりました。北海道地協は他地協より活動内容が不足と言われている中で、議事が進行し満場一致で承認されました。今後は翁新議長を中心に積極的な活動を目指して進めていきたいと思います。総会終了後の懇親会においては、総会時の物静かな雰囲気と大きく違い、なごやかな時をすごして明日への活力としておりました。



前議長 佐々木寿彦
（大林道路職組）

（日本舗道労組 中田亨秀）

「春よ 来い！」

この度、第8回道建労協北海道地協定期大会において、1998年度北海道地協議長の大役を、拝命致しました。三井道路単組の“翁”（おきな）と申します。我々、道路建設産業を取り巻く環境は、バブル崩壊後、急激な環境変化等を余儀なくされ、賃上げ・一時金等において、どの単組も大変苦労の中、又、追い打ちをかけるように、金融不安・雇用不安とまさしく冬の時代に居座っているのが現状ではなからうかと思えます。そういった中、北海道地協では同じ環境に置かれている各単組間の相互交流や地域問題等について、幅広く活動していきたいと思っています。そのためには、まず幹事会を今一層充実したものにしていき、より多くの情報交換を行い、この広い北海道での、地方都市でのレクリエーション開催等、現在検討しています。地協活動を支えて下さっている各単組の皆さんが、積極的に参加して頂くには、どうしたらいいのかが、最重要課題と考えております。何分、若輩者の私では微力のため、地協役員さらには加盟単組の皆さんにご協力を頂き、この厳しい冬の時代に終止符を打つべく、お力添えをしたいと思います。北海道地協が大きく飛躍する1年になることを祈念し、就任ご挨拶とさせていただきます。（三井道路労組 翁 信次）



翁新議長
（三井道路）

新タイトル「PAVE」のタイトルロゴ再募集

PAVE第44号(1998年10月26日発行)で、タイトルロゴを募集した結果、7名の方より、34作品の応募がありました。しかしせっかくの新ロゴでありますのでさらに多くの方々からの応募を期待しているところです。そのため募集期間を延長することとしましたので奮ってご応募ください。お待ちしております。

応募先 ご自分の所属単組の本部宛(右下記載加盟単組一覧表参照)
 応募締切 1999年2月末日
 注意事項 ・手書き、CGなど様式は問いませんが、そのまま印刷版下に使える形でお送りください。
 ・機関紙『PAVE』はご覧のとおり青と黒の2色刷りですのでその点も踏まえ制作してください。
 審査 3月開催の中央執行委員会にて、各単組から役員が集まって審議。
 賞金 採用作: 5万円、次点: 2万円、次々点1万円

前回クイズ 結果発表

前回のクイズ(PAVE第44号)は大変難しかったようで、応募者が6名(全員正解)しかいませんでした。そのため全員当選とし、応募要領通り本当に超豪華な粗品をお送りいたしました。

今回のクイズは前回よりやさしいので、ふるってご応募ください。

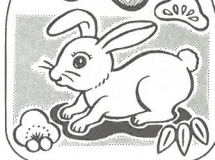
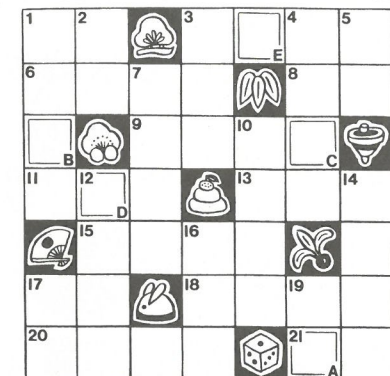
前回の正解

- Q1.『土栗』という秋の味覚は→キノコの仲間
 Q2.『マグロの幼魚』は通称→カキノタネ
 Q3. 本名が『武藤兵吉』というスターは→石坂浩二
 注 Q1. 2とも広辞苑に載っています。

当選者 広田 彰子、松下 悦子(以上東亜道路労組)
 佐田尾 一紀、杉山 加代、辻川 篤、
 和田 光昭(以上日本舗道労組)

クロスワードパズル

出題 ●モロゾミ勝



【解き方】 カギをヒントにマス目をうめ、次に二重マスに入れた文字をABC...の順に並べてください。それが答えです。

▼ヨコのカギ

- ①羽根つきで敗者に塗る?
- ③ユニオン・ジャックの国
- ⑥神や仏が人に与える恵み
- ⑧—のずいから天井見る
- ⑨3の—は9となる
- ⑪—も眠るウシミツ時
- ⑬1人用の部屋
- ⑮漢字から作った日本文字
- ⑰地形を縮尺した図面
- ⑱耳の前に生え下がった毛
- ⑳正月2日の行事
- ㉑春・夏・秋・冬

▲タテのカギ

- ①サイコロの目数だけ進む
- ②メートル法で千分の一
- ③乳幼児を育てる
- ④「かりゅうど」とも言う
- ⑤酢の飯に魚や具をのせる
- ⑦東海中膝栗毛の二人組
- ⑩ボートがひっくり返る波
- ⑫酒を飲む小さなうつつ
- ⑭痛烈な攻撃や打撃
- ⑮海鳥の代表、ユリ
- ⑯土地のねだん
- ⑰人間は考える—である

〈応募方法〉 下記を明記してお送り下さい。正解者の中から抽選で粗品をお送りします。たくさんのご応募お待ちしております。

- 回答
- 賞品送り先住所・氏名及び所属単組名
- しめきり 2/28
- 今月の紙面でよかった点、気づいた点がありましたらご意見もぜひお寄せ下さい。
- 宛先 〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11 日本舗道労働組合内
 道路建設産業労働組合協議会『PAVE』宛 FAX 03-3535-4810

※発表は次号(4月発行予定)

10月～12月活動経過

10.1～27 企業(道建労協加盟各社)訪問
 10.5 単組代表者会議
 10.27 建設産労懇運営委員会
 11.7 東京舗装工業社員労組定期大会
 11.25 九州地区交流会(ボウリング大会)
 11.27～28 第2回執行委員研修
 関東地協幹事会
 11.28 中央執行委員会
 12.3 三役会
 12.14 建設産労懇運営委員会
 12.15 単組代表者会議
 中央執行委員会
 労使懇談会
 第14回道建労協労使セミナー
 12.19 建栄会

道路建設産業労働組合協議会(道建労協)加盟単組一覧表

(1999年1月現在)

単組名	設立・組合員数	本部住所・TEL・FAX
大林道路 職員組合	昭和50年2月1日 1,260名	〒107-0062 東京都港区南青山 1-24-1 TEL 03-3796-6760, FAX 03-3796-6766
全大有 労働組合	昭和50年8月20日 300名	〒460-0022 名古屋市中区金山 5-14-2 TEL 052-882-9730, FAX 052-881-8687
大成ロテック 社員組合	昭和46年1月15日 1,240名	〒104-0031 東京都中央区京橋 3-13-1 TEL 03-3564-3164, FAX 03-3561-7075
東亜道路 労働組合	昭和50年10月18日 1,120名	〒106-0032 東京都港区六本木 7-3-3 TEL 03-3403-9355, FAX 03-3403-9380
東京舗装工業 社員労働組合	昭和35年6月 310名	〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-4-4 TEL 03-3253-5981, FAX 03-5256-0439
日本舗道 労働組合	昭和48年12月16日 2,400名	〒104-8380 東京都中央区京橋 1-19-11 TEL 03-3563-6744, FAX 03-3535-4810
フジタ道路 職員組合	昭和63年11月22日 360名	〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-15-8 TEL 03-3271-7961, FAX 03-3271-7965
不動建設 労働組合	昭和51年8月 60名	〒110-0016 東京都台東区台東 1-2-1 TEL 03-3835-0219, FAX 03-3835-0270
前田道路 労働組合	昭和27年3月17日 1,640名	〒141-8665 東京都品川区大崎 1-11-3 TEL 03-5487-0050, FAX 03-5487-0051
三井道路 労働組合	昭和51年8月15日 330名	〒108-0023 東京都港区芝浦 2-17-13 TEL 03-5765-7791, FAX 03-5765-7694
道建労協 本部	昭和60年12月21日 (9,020名)	〒104-8380 東京都中央区京橋 1-19-11 TEL 03-3562-5857, FAX 03-3535-4810

編集後記

1年間を漢字で例えるとかで、一昨年はたしか『倒』だったか、昨年は『毒』らしい。

今年は良いイメー字の年になるように期待して、本年もよろしく願いいたします。

フジタ道路職員組合 荒木俊一